

製品名: CD161 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08237**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

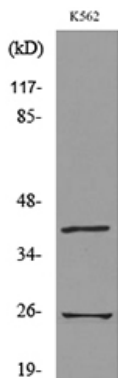
遺伝子名	KLRB1 KLRB1; CLEC5B; NKR-P1A; Killer cell lectin-like receptor subfamily B member 1; C-type lectin domain family 5 member B; HNKRP-1a; NKR-P1A; Natural killer cell surface protein P1A; CD161
別名	
遺伝子 ID	3820.0
SwissProt ID	Q12918
免疫原	抗血清はヒト KLRB1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

ナチュラルキラー（NK）細胞は、細胞傷害性を媒介し、免疫刺激を受けてサイトカインを分泌するリンパ球です。齧歯類の NKRP1 ファミリー糖タンパク質を含む C 型レクチンスーパーファミリーのいくつかの遺伝子は、NK 細胞によって発現され、NK 細胞機能の調節に関与している可能性があります。KLRB1 タンパク質は、C 型レクチンに特徴的ないくつかのモチーフを含む細胞外ドメイン、膜貫通ドメイン、および細胞質ドメインを含みます。KLRB1 タンパク質は、外部 C 末端を持つため、II 型膜タンパク質に分類されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：ナチュラルキラー（NK）細胞の細胞傷害性を抑制する役割を果たします。活性化により、特異的な酸性スフィンゴミエリナーゼ/SMPD1 刺激が引き起こされ、細胞内セラミドが著しく増加します。活性化は AKT1/PKB および RPS6KA1/RSK1 キナーゼの刺激、ならびに抗 CD3 抗体誘導による T 細胞増殖の顕著な増強にもつながります。末端糖鎖 Gal- α (1,3)Gal エピトープおよび N-アセチルラクトサミンエピトープに結合するレクチンとして作用します。また、CLEC2D/LLT1 にもリガンドとして結合し、NK 細胞を介した細胞傷害活性および標的細胞におけるインターフェロン- γ 分泌を阻害します。誘導：NK 細胞において IL-12 によって誘導されます。オンライン情報：NKRP1,PTM: N-グリコシル化。シアリン酸残基を含みます。類似性：1 つの C 型レクチンドメインを含みます。サブユニット：ホモダイマー；ジスルフィド結合。酸性スフィンゴミエリナーゼ/SMPD1 と相互作用する。組織特異性：主に腸管上皮および肝臓の NK 細胞のサブセットに発現する。末梢血 T 細胞、特に記憶抗原表現型を示す成人 T 細胞で検出される。

研究分野

画像データ



KLRB1 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



CD161 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。

